



瀬田の丘

創刊 1973年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部
東京都世田谷区瀬田 4-16-1

ミサの時間：月曜日-土曜日 6:20am（「朝の祈り」に続いて）
日曜日 7:00am、8:30am、9:30am



ロザリオの月

主任司祭 小西 広志 神父

10月はロザリオの月です。ロザリオの信心を少し歴史的に振り返ってみましょう。

ロザリオの祈りは中世後期から盛んになっていきました。ドミニコ会の創立者聖ドミニクスに聖母が出現し、異端に対して闘う武器としてロザリオを与えたと伝えられていますが、これは16世紀に成立した伝説といえるでしょう。

むしろ、この祈りの起源には同じ祈りを繰り返し唱えるという東方教会に古くからあった習慣が影響していると思います。西方教会では11世紀に主の祈りを50回、100回、150回と唱えるという習慣が生まれました。中世に聖母マリアへの崇敬が高まっていったのと相まって、主の祈りの代わりにアヴェ・マリアの祈りを唱えるようになったのです（12世紀頃）。

主の祈り1回とアヴェ・マリアの祈り10回唱える現在の形式に落ち着いたのはカルトゥジオ会のカルカルのハイリッヒ（†1408）によるものだとされています。15世紀以降、黙想する題材が指定されるようになりました。現在のよう形にしたのはドミニコ会のルペのアラヌス（†1474）でした。

ロザリオを通じての黙想は「喜びの神秘」、「苦しみの神秘」、「栄えの神秘」の三つありますが、それぞれ10回アヴェ・マリアの祈りを唱え（一連）、それを五つまとめた（一環）ものです。三つの神秘を祈るとアヴェ・マリアの祈りを150回唱えることになります。これは150編の詩編に対応するものだと見なされてきました。

現代において、ロザリオの祈りを強く推奨したのは聖ヨハネ・パウロ二世教皇です。今から15年ほど前に発表された使徒的書簡『おとめマリアのロザリオ』で、教皇は「マリアと共にキリストを観想する」祈りとロザリオを位置づけています。そして、新しいロザリオの唱え方としてこれまでの三つの神秘（「喜びの神秘」、「苦しみの神秘」、「栄えの神秘」）に加えて、「光の神秘」を黙想するようにと提言しています。「光の神秘」とはイエスさまが神の国の福音を告げ知らせた公生活での五つの出来事、すなわち、(1)ヨルダン川でのイエスさまの洗礼、(2)カナの婚宴、(3)神の国の宣教と回心の呼びかけ、(4)イエスさまの変容、(5)聖体の制定、を黙想するものです。また、伝統的には、これまでの三つの神秘を各曜日に割り振って祈ってきましたが、「光の神秘」を創設したことで、週の真ん中の木曜日にそれを黙想し、月曜日と土曜日は「喜びの神秘」、火曜日と金曜日に「苦しみの神秘」、水曜日と日曜日に「栄えの神秘」を黙想しながら祈るようにと勧められています。教皇は次のように記しています。

マリアに伴われながら、たえずキリストのみ顔を観想するロザリオという霊的道行においては、友情と呼ぶことができるような親しい交わりを通じて、このキリストに似たものとなるという目的を実現することが求められます。そこから、わたしたちは自然にキリストの生涯へと導かれ、いわばその思いを『呼吸する』ようになるのです（一・15）。

信心を蔑ろにしてはならないと思います。信仰は三つの要素から成り立ちます。まず、信じる内容です。これは神のみ言葉である聖書であり、教会の教えです。そして、信じる体験が必要で、これは一人ひとりの人生といたらよいでしょう。あるいは、信仰の共同体で共に体験する典礼（ミサ）ともいえます。信じる内容と信じる体験があって初めて信仰の核が生まれます。実はそれだけでは足りません。信仰が向かって行く先、信じて生きていく行き先が自覚されていなければならないのです。信仰が向かう先とは、もちろん神さまのいのちの中です。父と子と聖霊の三位の神の愛の交わりへと向かって信仰は歩むのです。

このように、「み言葉と教えである信仰の内容、生きることである信仰の体験、そして信仰の向かっていく先である神のいのち」、この三つが調和したときに人はキリスト者としての深みを増すのです。知識だけではだめです。体験と歩む営みがないといけません。体験だけでは、信仰はイベントとなります。体験を深める知識と道筋が必要です。歩みだけでは、正しく目的地に向かっていることになりません。五里霧中な歩みとなりかねません。神を知り、しかも、歩みの中にいるという気づきを促す体験が不可欠です。

信心には、それがどんなものであれ、この三つの要素が含まれています。信仰の知識に裏打ちされ、信心を実行するという体験があって、さらには祈りの一つひとつが神へと向かう献げ物なのだという確信があって、信心は深まっていきます。こうして、信心のおかげで信仰者は成熟するのです。

ロザリオを通して、イエスさまとの親しさが実現しますように。